



濱田 静岐社長



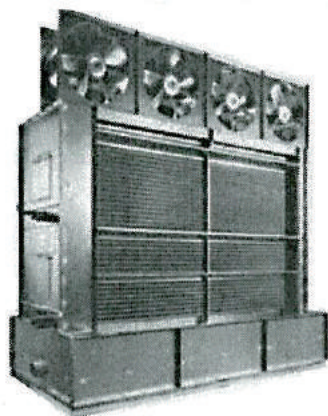
渡邊 千晴工場長



宮嶋 浩司部長

マキシス
業 15年見通しは後半上昇へ

全体最適、技術標準化を



床置型差圧式急速凍結用モデルのユニットクーラー

復興案件などが現在も続いている大型冷蔵庫関連に、
の再編及び伸びに対して発生する低温倉庫や物流センター。また補助金などの助成が絡む自然冷媒系の案件への刈取りに注力すると、全般的な見通しでは前半低く、後半高いといったイメージであるとした。

一方、生産側における効率改善について同社取組、渡邊千晴工場長は、併せて技術開発面については近年、同社が注力しているSUS管クーラーの動きについて、徐々にではあるがアルミからの置換などもあり、採用が増加していると、腐食や衛生面上の高付加価値が背景にあるとした。

但し、価格面に対する企

本産需要に明るく、デルへはヒッツァーのCO₂コンプレッサが搭載代表される低温機器で存在感を示す柴田溶接工作所（社長＝柴田勝紀氏、本社・福岡県福岡市南区塩原3-1-16）が先頃2月に開催されたスーパーマーケット・トレードショー2015において協業先でもあるドイツのグローバルコンプレッサメーカーであるBITZ E.R.の日本法人、ピッツァー・ジャパン（社長＝シュパン・フェルディナンド氏、本社・大阪府豊中市）のブースにおいてコンビニエンス・ストア向け（以下「コンビニ」）の「低GWPコンデシニングユニット（自然冷媒・R744使用）を初めて4において、同型機のプロシ製造したもので、同時に2013年に立ち上げを伸ばしていきたい」と2種をラインナップ。30

CO₂ユニット本格披露目

柴田溶接工作所

スーパー向け 4月より2機種上市

CO₂ユニット展示と柴田勝紀社長＝スーパーマーケットトレードショ

で知見を高めた柴田勝紀社長が約2年の歳月を掛けて自社製品として、各種コンポーネントを集結し製造したもので、同時に2013年に立ち上げを伸ばしていきたい」と2種をラインナップ。30

の再編及び伸びに対して発生する低温倉庫や物流センター。また補助金などの助成が絡む自然冷媒系の案件への刈取りに注力すると、全般的な見通しでは前半低く、後半高いといったイメージであるとした。

一方、生産側における効率改善について同社取組、渡邊千晴工場長は、併せて技術開発面については近年、同社が注力しているSUS管クーラーの動きについて、徐々にではあるがアルミからの置換などもあり、採用が増加していると、腐食や衛生面上の高付加価値が背景にあるとした。

但し、価格面に対する企

この開発は大手冷熱エンジニアリングメーカー・シニアリンクメーカースによる各種制御ノウハウを踏襲した逸品となった。現在、大手低温機器メーカーに限定されてきたCO₂冷凍・ショーケースに対する例えは22度Cとなった場合、風穴を温側で2・97となる。さ

の再編及び伸びに対して発生する低温倉庫や物流センター。また補助金などの助成が絡む自然冷媒系の案件への刈取りに注力すると、全般的な見通しでは前半低く、後半高いといったイメージであるとした。

一方、生産側における効率改善について同社取組、渡邊千晴工場長は、併せて技術開発面については近年、同社が注力しているSUS管クーラーの動きについて、徐々にではあるがアルミからの置換などもあり、採用が増加していると、腐食や衛生面上の高付加価値が背景にあるとした。

但し、価格面に対する企